



第11号
昭和52年5月10日
社団法人
上田高等学校同窓会
印刷所
田辺印刷株式会社

校舎改築二期工事進行

外柵工事も実施

昭和五十一年一月三十一日地鎮祭が行われた校舎改築第一期工事四階建八教室の建設は、計画通り進行し、八月二十五日より三年生が使用することになった。これより先き第二期工事が計画され、五十一年八月三十日、第一期工事の教室に接続し、西側に四階建十六教室の入札が行われた。工事費一億二千三〇〇万円で、竣工は本年六月三十日である。

第二グラウンド(旧馬場)工事速進する

旧馬場地籍、市営球場の西側に昭和五十一年十一月十六日買収をした第二グラウンドは、昨年七月十五

昭和五十一年度総会

六月五日開催

昭和五十一年六月五日(日)午後一時より総会を行なうが、当日の講師は加藤信大先生である。予算歳入・歳出共に四百二十九万六千四百六十六円であるが、入会者の会費九十六万円、会館使用負担金百五十万円、維持会費百二十万四千円が歳入の主なるものである。従って会員の方々は維持会費千円を同窓会宛に送金するか、東洋信託の信託金二万円を購入して、信託金の場合には利子の中から維持会費が自動的に同窓会へ振込まれ、五年後信託金と残余利子がお手元へ届く。

なお当日は昨年の秋の授章者勲三等旭日中綬章清水正郎(21回)、小泉所(23回)、加藤清(23回)、勲三等瑞宝章松山篤(25回)、勲五等瑞宝章清水汪(11回)、藍綬褒章母袋忠右衛門(32回)、藤森藤之助(37回)、黄綬褒章山浦義幹(24回)氏と昭和四十九年に授章された勲一等瑞宝章松沢兼人(14回)の氏と五月二十九日に授章された諸氏の祝賀会と懇親会を併せ行なう。

昭和五十一年五月三十日午後一時より同窓会館で総会が開催され小山敬三先生の「随想」と題する講演会が行われた。続いて歳入四百九拾五万四千四百六十六円、歳出三百九拾二万四千七百七拾七円の決算と事業報告及び決算報告の承認が行われ、引続いて文化勲章受彰者小山敬三氏(14回)、勲三等瑞宝章受

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

昭和五十一年五月三十日午後一時より同窓会館で総会が開催され小山敬三先生の「随想」と題する講演会が行われた。続いて歳入四百九拾五万四千四百六十六円、歳出三百九拾二万四千七百七拾七円の決算と事業報告及び決算報告の承認が行われ、引続いて文化勲章受彰者小山敬三氏(14回)、勲三等瑞宝章受

昭和五十一年度総会

小山敬三画伯の講演

昭和五十一年五月三十日午後一時より同窓会館で総会が開催され小山敬三先生の「随想」と題する講演会が行われた。続いて歳入四百九拾五万四千四百六十六円、歳出三百九拾二万四千七百七拾七円の決算と事業報告及び決算報告の承認が行われ、引続いて文化勲章受彰者小山敬三氏(14回)、勲三等瑞宝章受

小山敬三画伯の講演
彰者田中忠氏(19回)、勲三等旭日中綬章受彰者山口定次郎氏(21回)、勲三等瑞宝章受彰者西沢慶二郎氏(21回)、勲四等瑞宝章受彰者大森勲雄氏(23回)、勲六等瑞宝章受彰者中田正雄氏(28回)の祝賀会を懇親会と併せて行なった。出席百六十三名に達し、盛会であった。

写真集「古城の門」発刊

森澄夫氏作品

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

本年一月二十五日、信毎書籍印刷株式会社印刷で、本校第四十二期卒業生、森澄夫氏の写真集「古城の門」が発行された。A4判一頁の大冊で、今回の校舎改築の過程をカメラに収めた作品集、一冊三千元(送料を含む)で、本会事務局の中に「古城の門」刊行会が置かれているので、当会宛に御注文下さい。高校の改築の過程が細かく撮影された出版物は稀であり、取壊された教室の面影は本書によって回想するより方法がない。著者は「これは素人のレンズが捉えた昭和五十一年一月から十一月までの上田高等学校改築のドキュメントである。人生の一時に、力の限りを尽くして闘った古城場へ捧ぐる鎮魂曲であり、上田中学に寄せた青春への挽歌であ

安全とサービスを保って20年



営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具

長野プロパンガス株式会社

本社上田店 上田市大字国分542番地
TEL (02682) 25518(代)
松本支店 松本市美須々々7の1番地
TEL (32) 4652(代)
諏訪支店 諏訪市大字四賀757番地
TEL (2) 4353
広丘工場 塩尻市広丘野村
TEL (2) 0672
長野営業所 長野市中越
TEL (43) 5307

総合水処理 設計施行

パイプクリーニング、給水、給湯、暖房、冷却

除鉄、濾過装置、生活排水、工場排水

光式塩素滅菌機東信地区販売代理店

小林化学機材(株)

代表取締役 小林 弓右司 (55回)

上田市緑が丘3-21-1 TEL23-2918

校長先生更迭

柳沢恒夫校長は在職四年になり三月末日をもって御退職になり、帰郷され、佐久市中込新町尻二二九の三の御自宅で悠々自適される

新任の挨拶

校長 新津真澄

花のたよりのおそい信州ですが、校門脇の梅もほころび、まもなく桜・杏・蘋果と続いて咲く春爛漫の季節となりました。学校は、去る四月五日、柳沢同窓会長、水野PTA会長さんの御臨席をいただき、全日制三七六名、定時制二二名の新生を迎え入れ、今までの静寂さと打って変って、授業にクラブ活動に活気を呈して来まして。

私は、御退任の柳沢恒夫校長の後任として過日着任いたしました。前任校長は、昭和四十九年度創設の長野東高等学校で、用地買収から校舎建築、教職員組織や教育内容、方法の確立と、三年間目まぐるしい日々を過して参りましたが、教職員生徒ともども歴史や伝統というものの重要性を痛感させられました。

いま、古い伝統とゆかしい歴史を誇る上田高等学校にあって、見聞するものすべて感銘深く、いささか緊張せざるを得ません。屋形跡の校門をはじめ塀、堀のた、すまいとい、古びた木造校舎とい、積み重ねた年輪の重量感が溢れて、おのずから人の心を悠々の

ことになった。後任には長野東校長新津真澄先生が、四月一日御着任になった。先生は県教育委員会の高校課長を歴任されたこともあり、期待される。理事会は三月十四日両先生の歓迎会を開催した

叙勲祝賀会を兼ねて 二十三期会同す

二十三期同級生新年会(県内)を一月二十二日大門町ささやで開いた。

活躍された数々の業績を偶ぶとき古きよき伝統を継承しつ、新たな歴史を創造する責任の重大なことがひしひしと感ぜられます。すでに充実され、すぐれたスタッフである教職員と力をあわせて上田高校の教育の真価を発揮すべく専念する所存であります。同窓の皆さんの格段の御指導と御鞭撻をお願いいたします。

本校を去るに当って

前学校長 柳沢恒夫

本校での生活を最後として、長い教職生活に終止符を打つことになりました。本校での四年間の生活の数々の思い出が、走馬燈のように浮んで参ります。本校へ着任して、七十余年の長い歴史の中で培われてきた数々の本校のもつよさを、膚で感じました。このよさが学校全体の伝統的な雰囲気となって続いています。この雰囲気の中で、生徒達は夫々学習にクラブ活動に、真剣に努力してその成果を挙げています。先生方も生徒の指導に全力を傾けています。この本校の伝統的のよさは、今後も持続していかなばなりません。時代の遷遷とともに

若干の変化は免れませんが、今後の本校はどうあるべきかについて考えていかなばならないかと思えます。在任中の大きな仕事は校舎の改築でした。考枋校舎も思い出の一つですが、危険度の増した状態では、改築に踏みみるべき時期にきたというべきでしょう。同窓会のご支援のもとで改築が始まりましたが、全部の改築が終わるには何年後もかかるであろうと思えます。今後一層の御援助をお願いいたします。第二グラウンドの方は、お蔭様で五月末には完工となる予定です。これまた感謝の他ありません。本校はこれまで、物心両面から

第二十四期生の動向

此の期の者は一九二五年に卒業したから、一九七六年は、五十一

維持会員になろう

信州の将来である畜産経済の研究に貢献し、又学年の指導に尽した温厚な学者である。席上の挨拶も同君の人柄そのものの謙虚で温かな話振りで長い学生生活を語り、叙勲の状況を話されたのは印象的であった。お祝の言葉と記念の花瓶を一同の拍手の中に贈呈、同級生の気安さと穏やかな雰囲気の中に楽しい宴を終えた。

参会者 小林已根夫、横山功、桑原周、池田善三、横関辰雄、竜野進午、須藤芳雄、小林純造、香山順三、細田広康、若林孝夫、吉田信夫、久保田真一、矢島正一、滝沢晴雄、滝沢武夫、滝沢万二、吉池光信、山本保次、中島角太郎(中川東(中川記))

年月に当り、昭和の年号を一致した年数である。齢「古稀」に達した多くの者が鬼界に入ったが、残った者は相変らず元気で活躍している。宮原平一君の中国畜産視察から松山篤君のブラジル工業視察から帰られたのを期に、二月十七日上市市とん亭で話を聞く会を持つ。集る者十九名。両君が長年手がけた仕事についての視察なので、両国の実状、我が国との関係、産業の将来等について忌憚のない話し合いが出来て、まだ夜も長い如月半ばであったが、時の過ぐることに早さに驚く程であった。

次の会は六月五日、中仙道の宿場で名高い塩田の竹酒屋で催された。丁度五月雨時期であり、少

しかたよった土地であったので、折角、佐久に住む諸君が、心をこめての設置してくれたのであったが、集まる者十数名、何時もの数は少なかった。

九月十四日戸倉温泉白鳥園の会は地元玉井帯刀君の配慮によってもたれたが、初秋の向も交通の便もよいところであったので、集りも良く、二十三名、遠くは福島県福島市から笠原豊君、郡山市から田中鏡一君の両名、東京から柳沢晋一郎、富岡秀の二君が参加して昼のひととき歓談した。この会では卒業以後五十年も会わなかったという者もあって、楽しい会であった。

この後、田中鏡一君は親戚の遠藤恭介氏方に滞在して、童心にかえて、蝶などを追っていたが、九月十九日に亡くなった。猪飼源右郎君の葬儀にも列することが出来たのであった。猪飼君は長年の朝日新聞社を停年退職し、家業の観水亭の主人として、吾々同期のスポーツスマンの役割を引受けて活躍していたのだが、たまたま病魔に犯され、急逝したのであった。十一月十四日富岡東京幹事の世話で、伊東温泉小湧園で会が持たれた。伊東は蜜柑の成熟期であり南国特有のよい緑の葉におおわれ、各地から集った二十数名の心に、快よい温かさを漂わせてくれた。小湧園独特の酒のサービスで一同こころく酔いが廻って、長くなった一夜もたちまち明けてまた次の会を期して思い思いにわかれていった。

地域開発に貢献する
コンクリート製品総合メーカー
ホクシンルーム(物置)好評発売中!
上田市大字秋和444番地
北信セメント協業組合
代表理事 柳沢 理一郎 (33回)
TEL (0268) 22-2966(代)

お客様の心を大切に
真心こめた和菓子づくり
創業六十余年
御菓子司 青山新風堂
上田映劇通り TEL(22)0012
青山俊光 (53回)

三十九回青々二日会

一八会はこの五月二十九日万花荘に於て、三十余名集まり、病床にある笠井南村、清水両先生を偲びつつ、盛大なる同期会を催しました。幹事役の西沢、小林、山極、清水、金子の諸氏による勧誘が効をそうしたのか、遠く東京方面より菊地、島田の両氏、小諸から大西氏がかけつけて頂いた。

菊地博士による「アルコールと肝臓病」は年齢の為か、日頃の職務柄の為か、次々と質問が飛び出して時間の都合上質問中止の一幕もありました。その席上、上田市内の有志より提案があり、毎月、二日会を催したらと云う事を決議しましたので六月二日早速海野町道楽に於て実施しました。山極、小林、金子、土肥、平野、西川、今井、遠山、高木(信)、桜井、萩原の十一名が参加して夜の更けるのを忘れて話し合いました。

毎月二日六時より暫くは道楽で行っています。小林睦男(21)一四四五が萩原秀治(23)一七一七まで詳細おたずね下さい。多数の来場をお待ちしています。

八月二十二日山極正之兄の企画により「生れ変わった信濃国分寺」(伝承の信濃の鎌倉、塩田平)史跡探訪の集いを実施しました。東京支会より六名、地元十八名内同伴者四組)の同級生が集まりました。

幸い好天にも恵まれ、国分寺、

西光寺、住職を同級生にもつ三十九回は案内、説明にも充実したのが見られ、かてて、塩田史跡の保存会の優力役員山極兄の微に入り説明に、時のたつもの忘れれる位、昔の史跡の中に没入してしましました。

山狭の沢山湖での野宴について別所上松屋(同級生倉沢秀一兄経営)に於ける、夜の祝宴は各位の御芳志がもられたものだけに、夜のふけるのも忘れれる思いでした。

「青々二日会」の名称は甲州より病床の笠井南村先生が命名して下さいました。

昭和五十一年九月十二日 萩原秀治記

卒業五十年記念 二十六期生同級会

人生僅か五十年、とはるかな空に虹を描き雄志を抱いた中学生が、古城の門を築立ってから早くも五十年。明治、大正、昭和の三代にわたり、このどよめく時代を、にも角にも生き抜いた我等級友は、その齢正に古稀に迫る。懐いは「はるけくも来つるもの哉」である。

この五十年、ただただ、ひたむきにつつま走って来たと思う。世界を相手の激動の中に立って、文

31回記

三十一回卒業生(昭和七年)の同級会三十一会が三年ぶりに別所温泉、ホテルたけやで開催。

一一〇名に通知して、二〇名が出席した。温厚な会長松高が関東や地元からハッパをかけられながらの延引をわび、開会の辞を述べて、乾杯のあと、酒肴しながら、当番幹事(山寺・宮原)から不参加諸氏の動静、近況報告があった。

御遺族からの門ちゃん(星野)の訃報に、会員声をのみ、しばし冥福を祈った。

ホッパ廻しに、各自近況報告を終えた頃、「幹事!酒!」次第にアルコールが盛り上がり、眼鏡とハゲとシラカが入り乱れて楽しい時が流れてゆく。

「俺、老人扱いされるのがイヤなんだ」

「バカク、老人か、老人でないかは、われだれがきめるんだ」どいうやって、「朝、立つか、立たないか——でだ」大笑。

竹内正(上田市議)のホテルたけやには気兼ねがいらぬ。若奥様も陣頭指揮でお給仕やお茶のサービス。矢島リーダを囲んで「秋玲珂の……」の校歌に続いて、数々の応援歌、寮歌、「信濃の国は十州に……」と尽きない。

矢島が一段と声を高めて「みんな輪になって、両腕を組んで、静かに、左へ……はたるの光、窓の雪に、出席者、松高三男、寺沢正治、堀内弥平、岡岡修、手塚正男、宇野重徳、北沢文夫、堀内泉、宮坂三吉、矢島五郎、水野義男、田玉建造、竹内正、下田国男、小山一平、池田真治、中沢勝、半田義雄、山寺豊一、宮原英俊(宮原記)

五十四期会合報告

坂田隆雄、本堂知道、上田政男、滝沢博、田口喜一郎、山正徳、工藤一三、宮崎久登、石井公男、唐沢正美、竹内丈夫、森田達男、松井仁夫、中村徳太郎、中村進、山崎晋衛、馬場義人、水科和、坂下清御、松浦八郎、倉沢周平、佐藤弘一、榎山省一、立岩廣平、中田六也、六川忠一郎、大塚忠雄、峰村一、長尾秀次、大井直治郎、福井清作、柴崎章雄、山崎通雄、今井利貞、大石清治、渡辺子明、坂田長、清水喜代人、関財、

若林益夫、佐藤真一、萩原雅、小林邦人、小本會速水、下村律、宮本嘉壽、柳田健太郎、小林浩、吾妻良秋、桑沢俊法、南沢忠雄、(長尾秀次記)

不振であつた 野球部有望

春の北信越高等学校野球予選は四月から開催されているが、上田高校野球部は、九子実業高校と共に、東信地区代表として出場することになった。

一〇万円を贈り、恩師を囲んで記念撮影をした。

午後三時から会場を駅前東急イン、クリスタルホールに移し祝宴を行った。宴なかばで「我々が卒業して二十年たった今日、お互に元気で再会が出来たのは本当に幸福である。ついでには恵まれない方々に、ささやかでも贈りものをしよう」との動議があり、全員賛同により五万円が集った。後日それを市内の施設に贈り、車椅子が購入された。

次回第四回同盟会は昭和五十六年に開催することにし、そして飲むほどに、酔うほどに、なつかしい思い出やお互の近況の花が咲き最後は例によって校歌、凱歌、応援歌に盗声をはりあげて大合唱となった。先生方にも最後までお残り頂いて楽しい盛大な祝宴を行うことが出来た。(神林務記)

年四月二十六日、会場上山田温泉の干曲館に続々到着。玄関には墨太く、「上中二十六期生五十年記念同級会」の看板が出ていた。受付には地元の下り通学園の諸氏がつとめ、ここで同級会出席名簿にサインをし、名札を貰い、宿泊部屋割表を受け、夫々の部屋で互の無事を祝して「ヤア!、ヤア!」の挨拶と破顔で忽ち和氣堂に満ちた。集う者五十七名(現存者九十七名の過半数が出席)。やがて、身づくろいして地下講堂の法要会場の霊位が書きつらねてある。級友の桑沢俊法僧正が先唱で「智山勤行式」の経文を五十一名相和して捧げた。今は亡きなつかしい顔がそそろに浮かぶ。焼香も終り、テープに録音してきた上中校歌と寮歌と凱歌とを追悼の意をこめて心静かに聞いた。が、互にいつかしら、この歌を口ずさんでいた。

記念撮影後直ちに祝宴に入る。五十一年の星霜をこめた酒の味は格別。自己紹介は、前もって配布した四十頁にわたる名簿を近況だよりによるので略し、はじめて同級会に来た九人を代表して、北海道からヒコキで馳せ参じた宮原重信君と、那須野で満州から引揚げて努力して農場経営している横山君と、殆ど海外をたび廻っている馬場武君が挨拶して、あとは夜の更けるのも忘れて、未明迄飲み且つ懐旧談にふけた。

○ 斉唱の校歌に吾は咳き入りぬ (小林邦人)

○ 懐旧に葉桜の宵更けにけり (酒井輪一)

○ 応援歌テープに合せて皆歌う亡き級友徳ぶ法要の室 (今井利貞)

○ 春宵盛衰曲川辺 出学慈五十年 白髪相違動不尽 追懐酌酒友情全 (宮本嘉壽)

○ 古城西曲川辺 懐旧慰友故山 湯殿々鐘声招魂魂 仰見霊位五十四 (吾妻良秋)

○ 松尾城頭春方酣 別而以来五十年 湿旧交祝康希寿 上中健兒二十六期 (榎山省一)

当日の出席名簿の通り。(五十七名) 宮原重信、横山嵩、市村志真衛、松岡茂、馬場武、酒井輪一、

当日は午後一時から、母校同窓会館で、卒業二十周年記念式典を行い、幹事から第二回同盟会取後の経過報告をし、中沢校長先生をはじめ恩師からの御祝辞など講話を頂き、しばし高校時代の純真な気持となった。そして柳沢恒夫現校長から、校舎改築の現況と現代高校生気質についてお話をさせて頂き、我々の学んだオンボロ校舎が取り壊されつつあるのを見聞し、感慨一入であった。そして母校へ

上田高校同窓会

関東支部の現況報告

(その4)

前号の同窓会本部発行に寄稿したものは、昨年五十一年三月までの関東支部報告記でありました。ここには、その後(五十一年四月からの)関東支部経過報告記として送稿致しました。

◎四月九日(金) 各期代表による「新幹事会」開催。

過去二ヶ年間の各期代表幹事、本年三月をもって任期満了、本日本新幹事百六十余名の中、六十名出席、次の二大事項が議決された。

- (一)新役員幹事(任期二年)
支部長(28)坂井 実雄(新)
副支部長(30)尾台 三吉(再)
同 (31)矢島 五郎(再)
同 (35)花岡 侖(新)
幹事長(36)神野 勝雄(再)
副幹事長(40)小林 郷司(再)
同 (44)柳沢 広(再)
会報編集委員会(十名)
委員長(38)清水 幾男(新)
編集長(51)村田 寛(新)
会報広告部(十名)
部長(36)伊藤 東四次郎(新)
同 (58)林 嘉市(再)
同 (58)赤池 三男(新)
監事(25)馬場 長市(再)
同 (26)酒井 諭一(再)
相談役(21)島田 次郎(再)
同 (23)大森 頼雄(新)

……満場一致で右の如く新役員が決定した。前支部長の大森氏が

相談役に就任され、島田氏と共に本会発展のためにも更に御助言等が期待されている。慎重温厚な坂井氏が第六代の支部長になられ、本会の躍進向上に大いに御尽力なされることであろう。

会報発行については、実力豊富な清水新委員長、及び村田新編集長の活躍が期待されている。新たに今回、会報広告部員が撰定され、努力家の伊藤新部長の大活躍に部員も一致して実績が約されることであろう。

長年に渉り名編集長であった花岡氏が新副支部長に就任、編集上のよき協力者として、引き続き御尽

第三十五回卒同級会報告

木村 利喜雄

一會費 四千元以上

幹事 木村利喜雄

荒木 豊治

浜村謙一郎

「謹啓、寒気酷しい折柄益々健康にて御活躍の事と同慶に存じます。諸君と畏友三石武吉三郎君が昨秋、長野県教育委員会委員に選任されました。是を機会に久し振りに同級会を開催して、同君の激励に併せ、旧友を温めたいと思えますから、御都合の上御出席相成ります様、御案内申上げます。敬具

一日時 二月十九日(土)午後四時 一場所 上田市末広町 万花荘

下り汽車通学会

支部長、外役員幹事四名出席。

資するところ大、本会よりは坂井

会には同窓会、同級会などあるが、全く風変わりな会、即ち第二十四、五回卒業生を中心に約十年間の下り汽車通学会を半世紀ぶりに去る三月二十四日戸倉上山田温泉千曲館に開いた。

下り汽車とは上り列車通学の意味で、上田中学校より下り列車で帰宅する生徒会である。従って小諸、軽井沢方面への通学生は上り汽車通学会である。

北は屋代が長野中学校と上田中学校との境界で、屋代駅は両中学校の乗降駅であった。尚北塩尻は開業したばかりで埴科の南条、中之条の出身者は大部分は北塩尻駅に目をふれず徒歩で、上田中学校に欲迎された。

借て当日は定刻迄に続々参集、一年振りの再会に話はずむ。中には卒業以来始めて同級会に出席したと言う級友も数人あり、大いに歓迎された。

開会に当り幹事木村より経過報告、荒木君より本日の趣旨説明と共に、三石君の激励の言葉を贈り、その就任を祝す。三石君よりは、教委に就任の挨拶と現下問題多い教育界に対応する力強い抱負の言葉に併せ、同級生の協力方を望まれ、級友一同熱なる拍手を以て激励をした。

以上にて三石君を中央に懇親会に入つたが、既に卒業年次から数えても半ば以上の、六十歳に近い

(へ通学していた。当時下り汽車通学会は二十五、六名で、三十名を過ぎずとはなかったと記憶して居る。会名も後には下り汽車通学会と変わったこと、岩鼻以北の徒歩隊は岩鼻通学会となつたの語

半世紀前のお歴々が始めて一堂に会する上田中学校下り汽車通学会、多用のため欠席者もあつたが極めて喜ばれ、五年間もの同級生が顔を知らず想い出せない場面、少年時代より老人への転化の甚しさを如実に表わした。

こうなれば上級下級の規律の正しさが下級生上級生もない。一学期に一回天神町のタイ焼屋で買った大きなタイ焼を持参して、須

年齢の面々で有るが、古き良き在校時代の懐旧談に花が咲き、さては子供、孫の話、仕事の話と限りなく続く。

いつ迄も去り難く分け難い気持では有るが、時間も経過し、惜しみつつも、浜村君の音頭にて万歳を三唱、紅顔の少年時代に戻つて、互いに肩を組み乍ら校歌凱歌をなつかしく斉唱、お互いの健斗を祈りつつ、午後九時、近來にない盛會裡に散会した。

今回は遠方の級友諸君には連絡をしなかつたが、お詫びに併せ、次の会合を持つ事を誓つてこの報告を終ります。

五十二、三、八、記

賀の池、葛尾城跡、千曲公園、狐落城跡など懇親楽しみ遠足会のことと忘年会だが年一回は坂城小学校とか、坂城の大英寺とかを借りて夜十時迄でも茶菓夕會を共にし、各人又はグループで演芸など出し合つて楽しみ合つた事ども話は絶えなかつた。

今にして考えて見るとよくも坂城小学校が学校を貸したものだ。(現在なら貸さぬのに)尤も当時の中学生は社会的にも尊敬され、中学生自身も一種の誇りを持って

四十一期生会合す

上中四十一期同期会は、一月二日袋町武蔵野本店で当番幹事C組甲田英久、正村鉄男両氏主催で行われた。同窓会幹事報告学校校舍改築状況等説明あり、理事幹事の改選も行われ、理事には甲田英久君幹事に曾根正夫君、和田公平が選出された。亦昨年十月には勝野正哉君が斗病のかいもなく他界され、遺族の御希望により有志数名で生花を靈前に供えたが、今行は同期会の会計から支出することと承認された。

我々の同期会は戦後数名の有志により懇親会程度に行われていたが、二十五、六年頃より同期会に発展、A B C Dのクラス順に当番幹事が選出され毎年盛大に行われて居る。尚日時場所については一日二日午後二時武蔵野本店と決定している。

尚来年の当番幹事はD組金井彰舟見甲子郎両君である。

半世紀後のこの中学生は話ばかり、登載することの出来ぬ話の数々、楽しい一日を過ごしたことをお知らせする。二十五回小平正義

株式会社 小西屋

上田市常磐城5-1-22 TEL(02)2150(代)
取締役会長 小笠原利司 (20回)
取締役社長 小笠原光三 (51回)

万障お差繰の上多数皆さんの御出席をお願いし度い。 記和田公平